

水土里ネット当別

～泥炭地の原野から美田へそして今、次世代に引き継ぐ環境へ～

1. 水土里ネットの概要

受益面積：3,028.8ha、組合員数：420名、役員16名、職員：常勤12名

2. 運動の基本理念、目標

「泥炭地の原野から美田へそして今、次世代に引き継ぐ環境へ」これは10年間一貫して掲げ続け、今も変わらぬ目標である。農地・農業用水等の保全に水土里ネットがこれまで果たしてきた役割と今後果たすべき新たな役割について地域住民等の理解を醸成し深めていくことが重要であり、地域の財産「水」「土」「里」を良好な状態で次世代へ継承するため、近隣水土里ネットと連携しつつ運動の継続と更なる展開について検討する。

3. 21創造運動の活動

①景観・環境保全活動

農業・農村をテーマとした短歌を地元の短歌会に募集し水路の側壁に掲示。

②学校教育との連携による体験学習、施設見学会等

当別町の水田発祥の地に整備された親水公園で、田植えや稲刈りなどの農業体験や自然と触れ合う機会を提供。

③都市と農村との交流（農業・農村フェスタ等への参加）

JR札幌駅前広場や道庁赤レンガ前などで開催されるイベントでPRブースを設置し、水土里ネットの役割等をPR。

④関係機関との連携によるJICA国別研修業務の受入

JICA北海道と連携し、カンボジア、ラオス、インドから研修生を受け入れ、農家主体による水管理組織のシステムについての研修を実施。

4. 運動全体の成果と今後の展望

組合員による農村景観向上推進委員会により、用水路の草刈りが組織的に行われるようになるとともに地域の景観が向上し、ごみの不法投棄が減り、さらには高齢化による草刈労働力の不足が解消される相乗効果も得ることができた。今後は、イベント等の開催を通じて、さらに広い範囲に水土里ネットを啓発していくほか、体験学習、ワークショップ等により、参加者が自然や多面的機能と直にふれ合える啓発活動を継続していくこととしている。



当別幹線用水路に掲示された短歌



イベントではブースを設置しPR活動を展開